

4月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 水稲

スクミリンゴガイの防除対策について

- a 苗移植後は水深をできるだけ浅水(水深1cm以下)で管理する。
- b 餌や産卵場所となる水路周辺の雑草を除去する。
- c 貝及び卵塊を地域ぐるみで捕殺し貝密度を下げる。

2 さとうきび

(1)カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)

発生程度: 並

予報の根拠

3月の調査の結果、茎当たり虫数は0.9頭(前年0.7頭、平年1.6頭)と平年並であった。

防除上注意すべき事項

- a 2～3月の気温に基き、3月28日時点で防除適期を予想すると表のとおりとなる。今後の気象の経過次第で多少変動することもある。
- b この時期に地域一斉防除することが望ましい。
- c 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月28日現在)

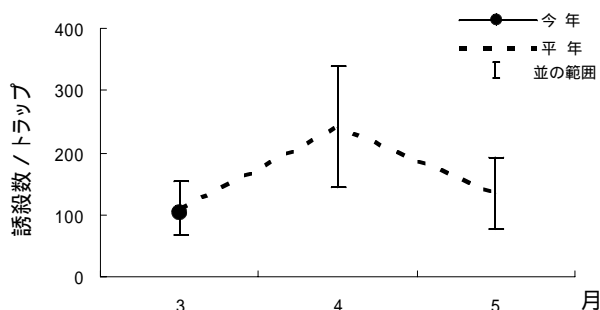
地域別	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月15日～4月29日	4月22日	4月26日	4日早い
南・北大東島	4月10日～4月24日	4月17日	4月20日	3日早い

(2)オキナワカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)

発生程度: 並

予報の根拠

3月の性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は101頭(前年78頭、平年109頭)と平年並であった。



オキナワカンシャクシコメツキの誘殺数の推移

防除上注意すべき事項

- a 誘殺用トラップは風通しの良い所に設置し、生育中の圃場内には設置しない。
- b トラップ周辺の除草や水及び中性洗剤の補充等の管理を定期的に行う。
- c 植付時の防除として植溝に粒剤を施用する。

黒穂病の防除対策について

- 4月以降徐々に発生が増加することが予想されるので、特に株出し圃場では今後の動向に注意し早めに抜き取り防除を行う。
- 胞子の飛散を避けるため、発病株は鞭状体の出現前に抜き取り処分する。
- 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- 苗の薬剤浸漬処理を行う。

3 マンゴー

開花・着果期の病害虫防除対策について

- 開花・着果期を迎えたこの時期は、花穂を中心に炭そ病、うどんこ病、チャノキイロアザミウマやチャノホコリダニなどの病害虫が発生する。
- 病害虫の発生程度はまだ低いものの、今後、気温の上昇とともに増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。

4 かぼちゃ

うどんこ病の防除対策について

- 例年、収穫期後半に向けて発生が増加する傾向にある。
- 老葉や病葉を除去し透光通風を良くする。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

モザイク病の防除対策について

- 3月中旬の調査の結果、発病株率は22.5%（前年1.0%、平年2.6%）と平年より高く、媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は0.8頭（前年0.1頭、平年2.5頭）と平年並であった。
- アブラムシ類の圃場への飛来侵入防止と防除を行う。
- 平成17年度病害虫発生予察注意報第4号（平成18年1月31日付け）参照。

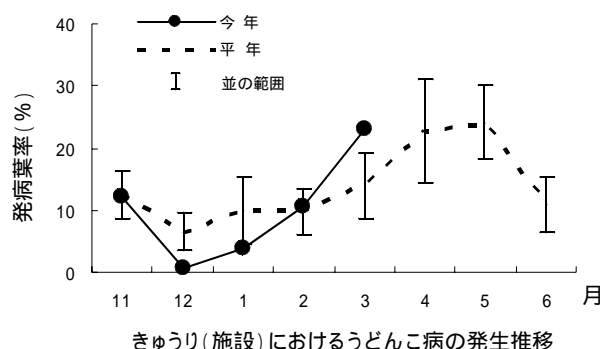
5 きゅうり(施設)

(1)うどんこ病

発生程度： やや多

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は23.0%（平年14.9%）と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 密植を避け透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、ビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

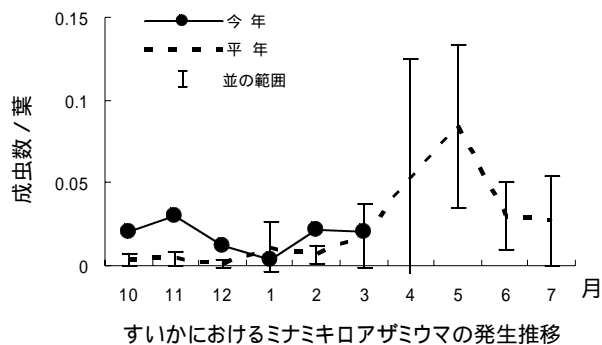
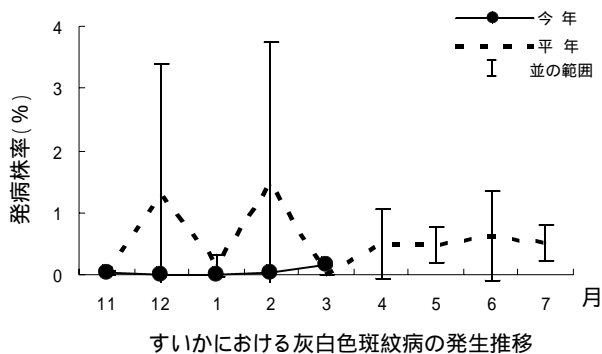
6 すいか

(1) 灰白色斑紋病

発生程度: やや多

予報の根拠

- 3月下旬の調査の結果、発病株率は0.15% (前年0%、平年0.01%以下)と平年より高かった。
- 本病の媒介虫であるミナキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.02頭 (前年0.07頭、平年0.02頭)と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

- 発病株は伝染源になるので見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 摘葉・摘芯等による残渣は、ミナキイロアザミウマの発生源となるのでビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- すそや側窓からの蔓や葉の露出は、ミナキイロアザミウマの施設内侵入を容易にするため、蔓や葉が出ないようにする。

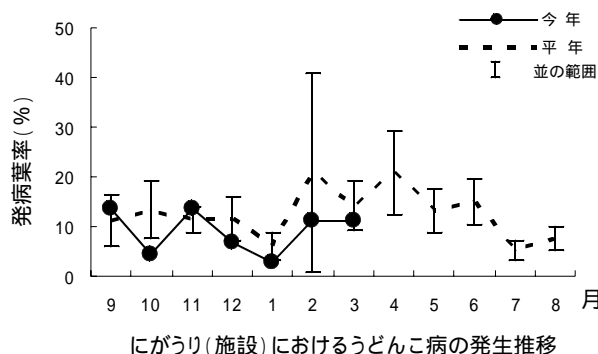
7 にがうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度: 並

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は11.4% (前年6.4%、平年14.3%)と平年並であった。



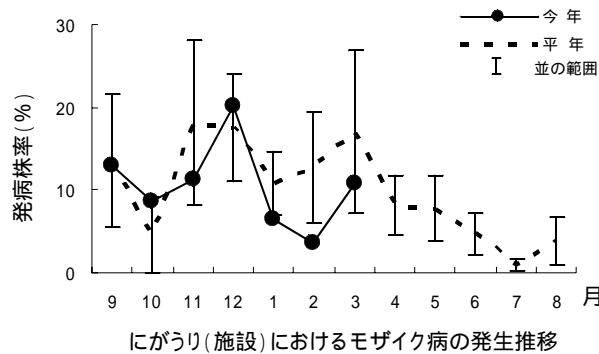
防除上注意すべき事項

- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 密植を避け透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、ビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見、早期防除に努める。

(2)モザイク病

発生程度： 並
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病株率は10.8% (前年26.2%、平年17.1%)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 施設周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 施設の入口、天窓、側窓には防虫ネット等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- 発病株は奇形果を生じ伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株のある木の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

8 野菜類

アブラムシ類の防除対策について

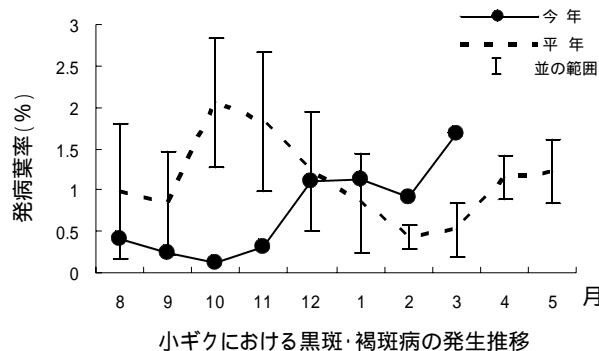
- アブラムシ類は多くの作物に寄生し、モザイク病を媒介する。今期は、かぼちゃでアブラムシ類の密度が高く、モザイク病も多発した。
- 今後、他作物へのモザイク病の拡大が懸念されるので、アブラムシ類の防除を徹底する。

9 小ギク

(1)黒斑・褐斑病

発生程度： 多
予報の根拠

3月下旬の調査の結果、発病葉率は、小ギクで1.67% (前年2.02%、平年0.52%)と平年より高かった。



防除上注意すべき事項

- 発病初期の防除を徹底する。
- 発病葉は除去し、通風、採光を良くする。
- 圃場は多湿にならないように排水に努める。
- 摘葉等による残渣は、圃場の外に持ち出し処分する。
- 平成18年度病害虫発生予察注意報第1号(平成18年4月3日付け)参照。